

宮城県泉高等学校におけるオンラインによる国際交流の事例

他機関との連携による取組み【フランスISEN工科大学日本文化研究所（所長高島氏）】

フランスで長年日本語を教えている日本人の方を通して、昨年度から交流を行っている。今年度は、10月に本校の2年生1クラス39名とフランスの中学生の日本語クラス約15名の交流を行った。こちらから日本や仙台、食べ物や東京オリンピックなどについて、プレゼンテーション形式で紹介し、その後自由に質疑応答するという形式で行った。さらに12月にこちらの2年生有志6名とフランスの高校生3名との交流、2月に同じ生徒6名と日本食を学ぶフランスの若い料理人との交流を行った。

【プログラムの内容】

- ・ISEN工科大学日本文化研究所 所長 高島氏のフランス人の教え子や知人と本校生徒との同世代間の交流。
- ・クラス単位での交流は英語科の異文化理解の授業として、事前にパワーポイントのプレゼンテーションを準備して行った。
- ・2回目以降は、現地の生徒は各家庭からの個人参加、本校生徒は放課後に60～90分の時間で、グループで参加。
- ・住んでいる地域・学校の紹介や日常生活、食文化またポップカルチャー等の若者文化をテーマに意見交換。
- ・互いの教員がモデレーターとして参加。フランス側の高島氏が日本語をフランス語に通訳する形での交流。



【工夫した点】

- ・パワーポイントファイルや動画・写真を事前に準備，伝え方も工夫。
- ・2月に行った3回目の交流は感染症予防のため，日本側の生徒も各家庭からオンラインで参加。

【今後の課題】

- ・テーマをSDGsなど世界的・社会的課題に少しずつ発展させていく。
- ・時差があることで，フランスの生徒は早朝になるので，交流の時間を調整する。

【経緯】

2020年6月末～	県教育委員会から本校へ受け入れの打診 その後交流開始
2021年4月～	先方から今年度の交流について打診 英語科内で検討
2021年9月	具体的な交流の形式の検討（電子メール、オンライン通話）
2021年10月	交流会開始 以降2回実施 今後も継続予定

